

第1. 3. 4. 6 学年特別支援学級算数科学習指導案

1 単元名 「買いものノートをつくろう」

2 単元の目標

- 「買いものノート」での操作活動に楽しく取り組むことができる。
- 硬貨の種類を識別したり、金額に応じた硬貨を取り出したり、おつりの金額を出したりすることができる。
- 自分の活動を振り返り、がんばったことを発表したり友達のよさに気付いたりすることができる。

3 こんな子どもに

本学級は、1年生3名、3年生2名、4年生2名、6年生2名の計9名で構成されている。子どもたちの中には買い物にほとんど行っていない子どもから、保護者と一緒に行き物の経験はあるが自分でお金を払ったりする経験は乏しい子ども、自分で支払いをしておつりをもらった経験がある子どもまで様々な段階がある。10までの数唱はできるが、まだ数字と読みが一致しない子、答えが10以内のたし算がやっとできる子、繰り上がりのある3けた+3けたの暗算ができる子と実態は様々である。

課題への取り組みについては、担任がいないと一人ではなかなか取り組もうとしない子ども、活動の手順を理解すれば自分で進めることができる子ども、課題には意欲的に取り組む子どもなど様々である。

4 こんな内容を

本単元は、子ども達の身近な生活場面の問題を素材にした買い物の模擬活動の場を設定し、①買う物と出会い ②各自の課題に応じた硬貨を数えて深め ③実際場面で買い物をして広げ ④活動したことを「買いものノート」にまとめるものである。買い物をする場面に出会い、いろいろな品物を買うという模擬活動を通して、金銭処理の仕方を身につけることをねらいとしている。指導の段階としては、

1. お金の弁別ができ、種類がわかる。
2. 買う物の値段がわかり、必要な金額を取り出すことができる。
3. 等価関係がわかる。
4. 複数の買い物をして合計金額を計算し、大まかな金額を出して、おつりの計算ができる。

が考えられる。

また、「自分で買い物に行ってみよう」という意欲を高めながら、実生活に生きる数や金銭処理の能力を高めることができる。買い物に行き自分の買いたい物を手に入れるためにお金を支払うという生活技能を高めることができると考えられる。いろいろな金額の出し方を身近な買い物の模擬活動を通して行うことは、生活場面に生きる金銭処理を習得していく上で意義深い。また、「買いものノート」作りをしていくことは、活動をふり返り、次の活動の意識を持続させて意欲を高めていくことにつながる。と考える。

5 こんな活動で

お金と物を交換するという体験学習を通して、様々な硬貨の中から必要な金額を出し、「買いものノート」にまとめていく。そのためには、①買う物のカードを取り出す。②様々な硬貨の中から必要な金額を数える。③買い物をする。④買いものノートにまとめる。という活動を繰り返して取り組ませる。その際、手順表を提示して、活動の手順や方法をつかませるようにする。学習課題としてお菓子一つの買い物を通して簡単な金額の買い物から、お菓子二つの買い物へと進み、等価関係やおつりの学習へと難度をあげた買い物へとつなげていきたい。

6 単元指導計画（全7時間）

	第1時	第2・3・4・5・6(本時)時	第7時
本時目標	「買いものノート」を作ろうの場に出会い、単元全体のめあてをもつ。	硬貨を使って、個別の「買いものノート」を作る。	作った「買いものノート」を発表してまとめる。
学習内容と伝え合う活動	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>買い物した時のことを発表しよう。</p> <p>買い物をしたことやお金を使った経験や買い物の仕方を発表しよう。</p> <p>2 見通しをたてる 今までの経験の中から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買った物を発表する。 ・買い物の仕方を発表する。 ・楽しかったことを発表する。 <p>3 自力解決する お金がいることに気付く。 品物には、値段があり、レジでお金を支払ってお金と品物を取り替えてもらうことに気付く。</p> <p>4 課題を追究する 買い物に行くためにはどんなことを学習すればよいのか発表する。 お金についてたくさん学習したいことを発表する。</p> <p>5 本時学習を振り返る 買いものノートをつくる 単元のめあて</p> <p>お金の種類や買い物の仕方、計算のやり方を知って、みんなで買い物に行こう。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>自分の好きなお菓子を選んで買い物をしよう。</p> <p>「買いものノート」をつくらう。</p> <p>2 見通しをたてる 手順図を見ながら確認する。 一人一人の課題を確認する。</p> <p>3 自力解決する 買い物カードを取り出す。 金額分の硬貨を数え、お金を並べシートで確かめる。 二つの品物の合計金額を計算する。 硬貨を財布に入れて模擬店で買い物をする。 買いものノートにことばや数値でまとめる。</p> <p>4 課題を追究する 学習したことを発表する。 自分が作った「買いものノート」を見せながら一人ずつ発表する。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>お金の計算をして、「買いものノート」を作り、きかせつなお金で買い物をした。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>「買いものノート」を作って、わかったことを発表しよう。</p> <p>「買いものノート」を発表しよう。</p> <p>2 見通しをたてる 一人一人の課題を確認する。</p> <p>3 自力解決する 前時までに作った買いものノートを振り返り、活動したことやわかったことを、単元目標に照らし合わせてまとめる。</p> <p>4 課題を追究する 買いものノートを見せ、自分が学習したことを発表する。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>「買いものノート」を作ったことを発表した。</p>
伝え合う活動の支援	買い物をした経験や楽しかったことを自由に発表させる。 自動販売機やお家の人と一緒にスーパーマーケットでの買物の経験を発表させお金の必要性に気付かせる。	操作の手順が分かり、個別の課題が明確になるように声かけをする。 できたことを賞賛し、発表の意欲をもたせる。発表で戸惑うときは、そばにいてサポートする。	できたことを賞賛し、発表の意欲をもたせる。発表で戸惑うときは、そばにいてサポートする。

第6時

1 本時目標

- 硬貨の支払いができる。

・個別の目標

A児 B児 C児	お菓子カードと10円, 50円, 100円の硬貨シールを買いものノートに貼ることができる。
D児 E児	1円, 5円, 10円の等価関係を使ってお金を支払うことができる。
F児 G児	代金分のお金を数え, 等価関係を使っているいろいろな種類の硬貨を組み合わせてお金を支払うことができる。
H児 I児	お金の計算をし, 硬貨を選んでお金を支払い, お釣りをもらうことができる。

2 本時のタイプ

タイプ4【習熟重視型】: つかむ・見通す段階において既習の学習を振り返る伝え合う活動

3 本時授業仮説

めあてや見通しを持たせる段階において次のような支援を行えば, 自信を持って操作活動に取り組み, 買いものノートをまとめていくことができるであろう。

- ① 各自に既習のつながりと本時課題をつかませ, 解決の手順を提示する。
- ② 自力解決できる教材を配列し, 買いものノート作りの場を構成する。

4 本時指導の考え方

本時学習指導においては, 活動の場と手順表を提示して前時までの学習を振り返り, 本時学習の見通しをもたせ各自の課題を一人ずつ意識できるようにする。次に, 本時に買い物したい品物に出会い, 提示された金額を硬貨を数えながら必要分取り出す活動を進めていく。

A児とB児とC児は, お菓子カードを取り出し, 金額と同じ10円, 50円, 100円の模擬硬貨をお金計算シートの上に置く。次に教師の言葉かけから模擬硬貨を財布に入れ, レジでお金を払ってお菓子をうけとる。お菓子カードと硬貨シールをノートに貼り, まとめる。

D児とE児は, お菓子カードを取り出し, 金額をお金計算シートの上に置かせる。1円, 5円, 10円の等価関係を使って模擬硬貨を置く。次に, 教師の言葉かけから模擬硬貨を財布に入れ, レジでお金を払ってお菓子を受け取る。硬貨シールや数字, 言葉で買い物したことをノートにまとめる。

F児とG児は, お菓子カードを取り出し, 金額をお金計算シートの上に置かせる。1円, 5円, 10円, 50円, 100円, 500円の等価関係を使って模擬硬貨を置く。次に, 教師の言葉かけから模擬硬貨を財布に入れ, レジでお金を払ってお菓子を受け取る。硬貨シールや数字, 言葉で買い物したことをノートにまとめる。

H児とI児は, お菓子カードを2枚取り出し, 代金を筆算で計算する。100円, 500円, 1000円の中から, 買い物ができる硬貨を選ぶ。お釣りがいくらになるかを筆算で計算して, 教師の言葉かけから模擬硬貨を財布に入れる。レジでお金を払って, お菓子とおつりを受け取る。数字と言葉で買い物したことをノートにまとめる。

最後に一人一人の学習を発表する場を設定し, 各自が作った「買いものノート」を発表することで自分で買い物をした活動を振り返る。お互いの買い物のよさに気づき伝え合う活動を進める。共にがんばったことを賞賛し, 充足感や満足感を味わう。

次時は, おつりがある場合の買い物をすることを教える。

5 展開

学習活動と伝え合う活動の内容

・主な支援
*伝え合う活動に関わる支援

つかむ
見通す

- 1 めあてをつかみ, 見通しをもつ
 (1) めあてを知る めあて 「買い物ノート」をつくろう
 ・前時の活動の「買い物ものノート」を参考にする。
 (2) 見通しをもつ
 ・手順表を見ながら一人一人の課題を確認する。
 ・えらぶ → 数える → 買う → まとめる
 2 買い物ノートをつくり, 発表する
 (1) 買い物ノートをつくる

追究する

A・B・C児 D・E児 F・G児 H児 I児

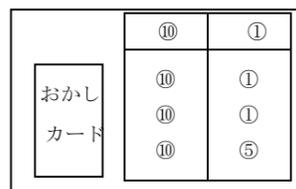
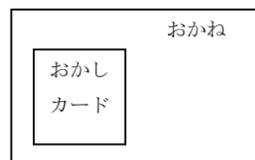
・お金の絵が入った 100 円の品物のお金を取り出す。 ・15 円,26 円,37 円の品物のお金を取り出す。
 ・279 円,287 円,298 円の品物の中から 2 つ買って、等価関係を考えて硬貨を取り出す。
 ・256 円,268 円,279 円の品物の中から 2 つ買って、繰り上がりのある 3 位数のたし算をする。
 ・256 円,268 円,279 円の品物の中から 2 つ買って、何百ー3 位数の計算をする。

① カードを見て, 買う物を選ぶ

- お金の名称を表現する。 ○ 品物の値段を表現する。 ○ 2つの品物を選び、値段を表現する。 ○ 2つの品物を選び値段を表現する。 ○ 2つの品物を選び値段を表現する。

② お金を数える

- お金の絵に対応する硬貨を取り出す。 ○ お金数えカードに 10 円玉と 5 円玉と 1 円玉を取り出す。
 ○ 2つの品物の硬貨をそれぞれお金数えカードに取り出す。5 円玉 2 個と 10 円玉 1 個,10 円玉 5 個と 50 円玉 1 個,50 円玉 2 個と 100 円玉 1 個,100 円玉 5 個と 500 円玉 1 個を交換しながら
 お金数えカードに,
 500 円玉と 50 円玉と 10 円玉と 5 円玉と 1 円玉を取り出す。
 ○ 2つの品物の代金の合計を計算し、お金を出す。279+256=535 ○ 2つの品物の代金の合計を計算し、出すお金を決め、おつりを計算する。



百	十	一
500	10	1
	50	5
5	6	6

百	十	一
100	10	1,1
100	10	1,1
100	50	5
100	50	1
5	3	5

一の位
9+6=15
十の位に 1 くりあがる
十の位
1+7+5=13
百の位に 1 くりあがる
百の位は
1+2+2=5 279
だから +256
 535

百	十	一
600	0	0
100	10,10	
100	10,10	
100	10,10	
100	10,10	
5	3	5
	6	5

600-535
一の位
0から5は引けない
百から十に10を10こ、十から10を一にくり下げて10-5=5
十の位は 9-3=6
百の位は 5-5=0
600
-535

65

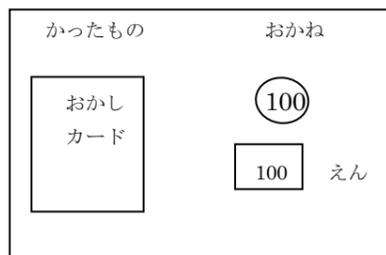
※お金の名称を強調する言葉かけをする。

※1円と5円の等価関係表を提示する。

※1円と5円、5円と10円、10円と50円、10円と100円、50円と100円の等価関係表を提示する。

③ 買い物をする

④ 買い物ノートにまとめる



37 円の()を買いました。
買ったもの
おかし カード
10 円が 3 枚で 30 円
5 円が 1 枚と 1 円が 5 枚で 7 円
◎あわせて 37 円はらいました。

279 円の()と,287 円の()を買いました。
おかし カード
おかし カード
100 10 1,1
100 10 1,1
50 5
100 10,10 1
100 10 1
50 5
566 円はらいました。

279 円の()と 256 円の()を買いました。
おかし カード
おかし カード
しき
279+256=535
答え 535 円

279 円の()と 256 円の()を買いました。あわせて 535 円です。
600 円はらいました。
おかし カード
おかし カード
おつりは 65 円でした。

*①~④を繰り返す。

*①~④を繰り返す。

*①~④を繰り返す。

*①~④を繰り返す。

*①~④を繰り返す。

振り返る

- (2) 買い物ノートを発表する
 ①一人一人の買い物ノートを発表する。
 ②お互いの買い物のよさを見合う。
 3 今日の学習を振り返り, 次時を知る
 (1) 今日の学習を振り返る
 (2) 次時学習を知る

・個別の手順方法・等価関係表・個別の課題の提示。

・自立解決や個の操作活動を促す支援をする。

*発表したことをお互いにほめ, 認め合うことで充足感や達成感が味わえるようにする。